栃木県立特別支援学校宇都宮青葉高等学園 広報誌

AOBA 号外

2019. March

# 新しい時代にあっても

校長　中　田　　誠

2019 年 3 月 7 日、県内初の高等特別支援学校の第一期生が、自信と誇りを胸に学び舎を巣立っていきました。卒業式の式辞の中で、卒業生に向けて次のような話をしました。

---

まもなく新しい時代を迎えます。社会や経済は国の枠を越えてより複雑化し、また、ＡＩ（人工知能）の進化により、生活はより便利になりますが、一方で仕事の大半が奪われてしまうとも言われています。さらに人口減少、地球温暖化等の困難な課題への対応についても、模索が続くことになると思われます。このような予測のつかない時代を生きていく皆さんに、大切にしてほしいことを二つお話します。

一つは、**「実直に生きる」**ということです。
どのような状況にあっても、自分に与えられた条件の中で、できることを一つ一つ確実にやり続けることが大切です。
校門の北側にある記念碑には「道は近しと雖も行かざれば至らず、事は小なりと雖も為さざれば成らず」という荀子の教えが刻まれています。皆さんが本校での三年間をとおして学んだ、何事にも前向きに、手を抜かず、実直に取り組む姿勢は、他の何ものにも代え難いものです。
これからの人生において、人として働くことの意味やＡＩには真似のできない私たちの良さとは何であるかを問い続けてほしいと思います。

もう一つは、**「出会いを大切にする」**ということです。
人は誰でも、一人で生きているわけではありません。いろいろな出会いの中で、いろいろな人に支えられて生きています。
私自身、以前の職場で、仕事が上手くいかず弱気になっていたある時期、信頼する友人から「やろうと思えば、いつからだって大抵のことはできる」「今だって、自分の思いは実現できるはず」という勇気づけの言葉をもらい、厳しい状況を何とか乗り越えることができたという経験があります。その友人とは、ある時、思いがけない形で出会いましたが、その後のやりとりの中で、互いの信頼感を高め、認め合い、励まし合う関係を築いています。
皆さんにも、本校で出会った友達や先生とのつながりを大切にしてほしいと思います。また、これから訪れる人生のいろいろな場面で、新たに出会う人たちを大切にしてください。人を大切にすることで自分の夢が叶うとともに、他の人の夢を叶えられる人になると思います。

---

3 月 22 日の修業式には、１、２年生に向けて「自立」とは何かという話をしました。

---

私たちは、家庭や地域、学校、職場などの身近な社会の中で、互いに自分のできる範囲で、主体的に役割を分担し、足りないところを支援し合って生きています。
自立とは、自分一人で生活できるということではありません。自分の意思に基づき、周りの人に支援を受けながら生活することまでも含めたものです。そもそも、何でも自分一人でできるスーパー・パーソン（超人）は、この世に存在しないのですから・・・
自分のできることは手持ちの力で取り組むけれど、できないことは周りの人に助けてもらえばいい。真の自立とは、自分と周りの人との間に**「互いに助け合う関係を築く」**ことであると思います。

---

新しい時代にあっても、大切にしていきたいものは変わらない、私はそう思っています。